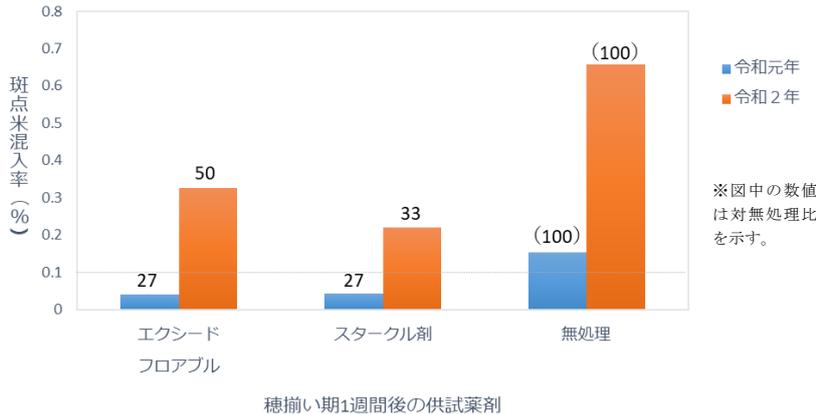


斑点米カメムシ防除剤(エクシードフロアブル)の効果

【1 成果の概要】

- (1) エクシードフロアブルは、斑点米の発生抑制効果が高い薬剤です (図1)。
- (2) 本剤を穂揃期1週間後に散布したほ場で追加防除を行う際は、残効期間を考慮し (図2)、穂揃期2週間後 (本剤散布の1週間後) に行いましょう。

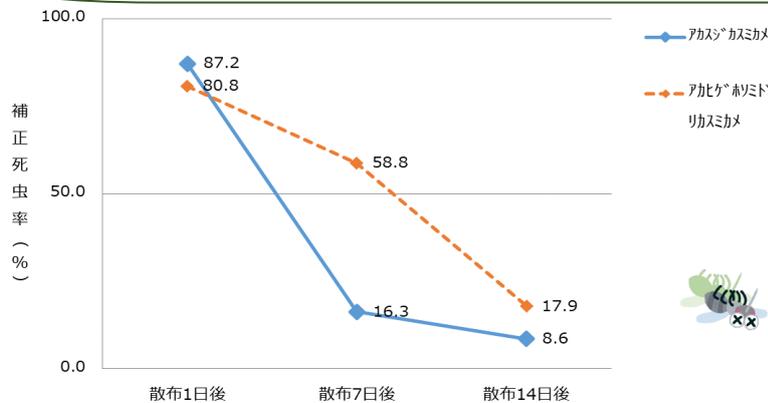


試験概要(図1)

品種：どんびしやり
 移植日：R1/5/15、R2/5/14 穂揃期：R1/8/1、R2/8/7 成熟期：R1/9/10、R2/9/7
 試験区：薬剤処理は2回とし、穂揃期約1週間後および同約3週間後に散布。1回目はエクシードフロアブル(2000倍)、R1はスタークル顆粒水溶剤(2000倍)、R2はスタークル液剤10(1000倍)を用い、2回目は無処理を含むすべての区にスタークル剤を散布。
 調査方法：成熟期にR1は150穂、R2は200穂を採集し、乾燥調整後に1.9mm以上の斑点米混入率を調査。

図1 穂揃期1週間後防除薬剤の違いによる斑点米抑制効果

穂揃期1週間後に使用した薬剤の2週間の斑点米抑制効果を示しています。エクシードフロアブルの効果はスタークル剤と同等または劣ります。



試験概要(図2)

品種：ひとめぼれ、いわてっこ
 試験・調査方法：
 ・ポットに稲株を掘り上げ、穂揃期7日後 (R1/8/7、8/11) にエクシードフロアブル(2000倍)を散布。
 ・薬剤散布翌日、7日後、14日後にそれぞれ3穂抜き取り、水を入れた三角フラスコに挿し飼育箱に設置。そこに、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメを雌雄4頭ずつ(計16頭)放飼し、48時間以内に死亡した虫数を計数し、補正死虫率を算出。

薬剤散布翌日は80%以上だった補正死虫率が、薬剤散布14日後には20%以下となり、殺虫効果が切れていると考えられます。

【2 留意事項】

図1の試験ほ場の斑点米カメムシの発生状況は、令和元年は少発生、令和2年は多発生です。また、両年ともアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメの発生が見られ、令和2年の優占種はアカスジカスミカメです。なお、割れ粳率は令和元年が40%以上、令和2年は70%以上と高い条件下での試験です。